

1. 評価結果概要表

作成日 2007年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0870101607		
法人名	株式会社 四方建築設計事務所		
事業所名	グループホーム ぐるんぱの杜		
所在地 (電話番号)	茨城県水戸市大串町116-4		(電話)029-240-5678

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成19年6月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月 40,000 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東前病院 ・ 篠原医院 ・ 青柳病院 ・ 大串歯科 ・ 湊歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市外から離れ静かな環境の中にある。車で出かければ、スーパーやホームセンターなど近隣にあるので買い物に便利である。また、少し足をのばせば大串公園、涸沼、大洗海岸と自然に恵まれた環境が備わっている。室内は天窓から光が入り開放感がある。庭には畑があり、季節の花や野菜が作られていて、利用者の楽しみになっている。利用者一人ひとりのアセスメントが細かくまとめてあり「その人らしい」生活が送れるよう管理者、職員が工夫し、努力している。常に、サービスの向上や質の向上に向けて取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域に向けて理念を掲げ、自治会、行政に働きかけを行っている。介護計画に対しては利用者や家族に説明しケアの向上につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、スタッフを中心に意見を出し合い、地域へ発信して行こうと努力している。アセスメントを基に笑顔と安らぎのある暮らしを一緒に過ごしていただくために、会議等で職員の意見を取り入れながらケアに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	1回目の推進会議が終了した。自治会長、民生委員、市の職員、家族の代表の方々に参加していただき、ホームのサービス向上に活かしていく取り組みをしている。会議内容を、職員にも伝達され、意見の共有化に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会に来るごとに、生活等の様子を話している。今後、新聞を作成し、個人個人に送付していく予定である。また、地域に向けても新聞発行しホームを理解してもらおうという取り組みを考えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で行われているバザーに参加させてもらっている。また、小学生を呼んで体験学習の場としている。公民館などで、地域の方とのイベントを考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に、地域に向けての事柄を入れている。回覧を活用しグループホームとしての役割と理念を浸透させたいと考えている。		今までの理念を大切に活かしながら、今以上のサービスの向上につなげていけるよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス等で、話の中で理念を取り入れながら共有に向けている。職員も理念に基きケアに取り入れられるよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生を体験で呼んだり、初めての試みとして、夏祭りに地域の方を呼んで開催していく。交流が深まるよう努力している。		イベント開催をきっかけに地域活動へ向けていけることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後に全員参加で検討している。参加できない職員は議事録をみて意義と理解を伝えられるよう取り組んでいる。		自己評価提出前にも職員に関わってもらうことで、評価される意義がさらに理解されると考える。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が開催され、ホームのサービス向上に意見を活かしている。議事録に残しているため、職員にも会議での内容が理解されている。		

茨城県 グループホームぐるんぱの杜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への働きかけはしているが、どのようにしていったらいいのか試行錯誤している状態である。連携をはかれるようホームからも積極的にアピールしていくことを今後もしていきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に利用者の状態など話している。今後は新聞発行し、渡したり、郵送したり定期的に行っていく予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱は設定されている。投函は現在されていない。面会に来たときに、意見される方もいる。		重要事項説明、契約書に第三者窓口の連絡先を載せておくことより、家族にとって安心感を与えることにつながると考える。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は職員の定着がされている。そのため利用者へのダメージを防いでいると考えられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の中で研修にいけるよう努力している。研修に参加したら、内部研修で発表している。	○	自己啓発として、ビデオをみて、本を読んで介護に関する勉強だけと考えているときもある。研修の必要性、自己向上のためにも参加するという向上心を育てられるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協議会を通じて同業者との交流を深めている。ホーム職員が交流のあるグループホームに見学、研修に行く取り組みをしている。活動を通して、ケアサービスにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族との話し合いやご本人の見学や体験など納得のうえサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴など家族から聞き、職員でカンファレンスしている。利用者の状況にあわせて共に生活していけるように関係を築いていけるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやコミュニケーションから一人ひとりの状況を把握し、実現に向けての調整をしている。また、家族も含めて考えるよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センターとICFを取り入れ、アセスメントしカンファレンスにて職員間で計画内容の共有をしている。月1回のカンファレンスでは意見、アイデアが言える環境にある。計画に反映されるよう努力している。		今後も利用者がより良く暮らせるよう、意見、アイデアが言える環境を維持していく努力を期待している。身体面のアセスメントはケア計画につながっていくので、続けていってほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに計画修正を出来るよう心がけている。受け持ち利用者の計画修正は出来る限りタイムリーに作成できるよう対応している。	○	記録類が一人ひとりにファイリングされていない。そのため、記録の連動がされにくいと考える。個別になっていると計画、記録、評価、修正が出来、ケアにつながっていくと思われる。職員全員が利用者の生活を把握しやすいと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同系列のデイホームに遊びに出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能になっている。急変時、医師の指示を仰ぎ、指示の下に動けるように職員が把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師、家族、ホームとの話し合いがされている。家族の要望でターミナルの受け入れもされている。医師との連絡が出来る体制であり、職員間の連絡体制も整えている。職員のなかに看護師がおり、話し合いがもたれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全体が一人ひとり、利用者を尊重する言葉かけに心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理せず、利用者に合わせて1日が過ごせるように支援されている。家族の意見等、参考にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話が弾み、食事を楽しんでいる。一人ひとりの嚥下状況や体調に合わせて、食事の調理の仕方を変えている。また、畑で出来た野菜などが食卓に並ぶ等、楽しみがある。時々、食事に関するアンケートをとり、メニューに取り入れれたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には時間帯が決まっているが、希望に合わせてられる環境である。1日2回入浴される方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を職員が把握されており、日々ケアに活かしている。部屋には、編み物やオルガンなどがおかれ、家での生活観が感じられる。その方が生活されてきた環境に近づけるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	友人宅への外出、個々の外食の希望に出来る限りこたえられるよう、支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかかっておらず、利用者は自由に入出入りできている。職員は利用者が安全に戸外へ出られるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対する避難訓練は行われている。地震等の災害が起こったときの対応については、考えていない。備蓄等、地域の協力なども確認されていない。災害対策についてのマニュアルが作成されていない。	○	今後、どのような災害が起こるかわからないため、対策、方法を考えマニュアル作成をしてほしい。そして、災害の対する意識を高めていってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に食事作り専用の方がおり栄養に関する勉強してもらっている。食事内容は、利用者の状況を把握したうえで、提供している。		家族に、食事内容を理解していただく意味でも、新聞に載せるなど考えていくとよい。栄養に関してホームでの生活を理解していただき、安心していただくことにつながっていくと考える。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは明るい雰囲気であり、居心地がよく過ごせる。家で使われている家具などが置かれ、なつかしさが感じられる。図書館から本を借りて、いつでも読めるようにしている。風の通りがすがすがしい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが家にいたときと同じような部屋になるよう配慮がされている。		